

乳幼児健康診査マニュアル概要版・完成～配布

平成24年度第3回母子保健対策専門委員会小委員会

- 日 時 平成25年3月18日（月） 午後1時30分～午後3時40分
- 場 所 鳥取大学医学部附属病院 第二中央診療棟3階 テレビ会議室
- 出席者 8人
神崎委員長、石口・笠木・酒嶋・前垣各委員
県子育て応援課：山根係長
健対協事務局：岩垣係長、田中主任

協議事項

1. 鳥取県乳幼児健康診査マニュアル【概要版】 最終確認について

12月の小委員会及び3月7日の母子保健対策専門委員会での議論を踏まえ、最終的な中身のチェックを行った。依頼していたイラストもほぼ完成し、併せて確認を行った。【概要版】は、小児科医以外の健診医にも活用できるようにできるだけ簡素化し、見やすいものを想定している。

意見交換の中で、以下のような意見があった。

- ・身体所見の流れで、「全身の確認」を皮膚所見・全身色と併せて一番始めに行い、同時に四肢のプロポーション・栄養状態・計測値の確認も行う。
- ・6ヵ月児健診以後のイラストへの引き込み線は、省略する。
- ・1歳6ヵ月児の体、3歳児の頭のイラストは、

バランスを考えて少し細くする。3歳児のイラストの乳首の位置も修正。

- ・3月7日の専門委員会の後に委員から意見のあった箇所については、前垣・長田委員へ確認して頂く。
- ・完成した【概要版】は、3月末に小児科及び産婦人科標榜の医療機関へ送付し、実際の健診の場において4月から6ヵ月程度活用して頂く。現場での様々な意見を反映して、【概要版】の正式な完成を目指す。

2. 1歳6ヵ月、3歳児健診行動問診票について

発達障害への早期発見に有効とされている行動問診票について、前回の小委員会において、1歳6ヵ月児健診については改めて行動問診票は作成せず、県が示している「鳥取県乳幼児健康診査マニュアル」の健康診査票の問診項目欄に、「やり取り遊びをするか」「視線が合うか」「名前を呼ば

れたら振り返るか」「友達が泣いていると心配する、または表情を見に行くか」の4点を追加する方向で検討することとなった。4点を追加することに伴い、現行の健康診査票の問診項目がかなりの項目になっていることから、項目の整理を行った。なお、各市町村では県が示している問診項目をそのまま活用している所もあるが、独自に項目を工夫している所もある。

県が現在示している問診項目のうち、事故や病気で入院歴や治療中の病気に関するもの、聴力や視力に関するものについてはそれぞれ項目統一ができるのではないか、予防接種はスケジュール通りに受けているかどうかが重要なので、詳細な内容まで記入する欄は必要ないのではないか、「近所に同じ年頃の遊び友達がいますか」はあまり必要ないのではないか、などの意見があった。

市町村によっては県が示している問診項目をそのまま活用し、その後のフォローに繋げているなど重要視している問診項目があるかもしれない。4点の追加項目と併せて、問診項目の見直しについては、県より市町村へ照会し進めていくこととした。

3歳児健診については、前回の委員会において行動問診票を新たに作成し導入しても良いのではないかという意見があり、提案のあったSDQについて検討した。SDQとは「はい、いいえ」の質問形式により行動評価が出来るもので、親の困り感を聞くことができる。本県では5歳児健診で2市町が導入している。

これについて、県が示す全県的なマニュアルにこのSDQをそのまま転用しても著作権等で問題ないのかどうか確認が必要である、使い方や評価法（「はい」が何個以上だと紹介すべきなど）の基準がないと確認する方法が分からない、既に導入している市町村から通過率などのデータが提示してもらえないか、問診を誰が記入したのか（保護者なのか保育士なのか）によって通過率が大きく変わってくる、などの意見があり、まずは全県

的に使用できるのかどうか、県より確認して頂くこととなった。

また、1歳6ヵ月児健診と同様に問診項目の整理も行い、事故や入院歴や予防接種については同様に簡略化し、新たに、テレビ・ビデオ・ゲームについて項目を追加して欲しいとの意見があった。全市町村共通項目では、「でんぐり返しができますか」は通過率が下がってきているが、出来ないのか、させていないのか、出来ないことが問題にならないのであれば削除してはどうか、「ひとりでおしっこに行っていますか」→「尿意が分かってひとりでおしっこに行っていますか」の方が意図が分かりやすい、「友達を〇〇ちゃんと呼びますか」については、男の子は「〇〇くん」で呼んでいるので〇〇ちゃんとは呼ばない、などの意見があった。

ただし問診項目のうち、全市町村共通で実施している項目については、昭和57年から集計している貴重な項目であることから、1歳6ヵ月児健診と同様に、問診項目の見直しについては、市町村へ必要性などを伺った上で進めていくこととした。

3. 乳幼児健康診査マニュアル（本体）執筆分担、今後のスケジュールについて

マニュアル（本体）については、25年度中に改訂を行うこととしている。流れとしては、【概要版】を25年4月以降に実際に健診会場で6ヵ月程度使用し、現在の問診票との整合性や現場の保健師などの意見を参考にしながら、マニュアル（本体）の検討に入ることとしている。

マニュアル（本体）今後の執筆分担とスケジュールについて、以下のとおり検討した。

- ・【概要版】を基本とし、足りないところを補足していくイメージで作成する。まずは1ヵ月児健診を作成し、それを参考として以後key monthごとに作成していく。
- ・執筆者は、身体所見については鳥取大学の小児科医もしくは長田委員、発達所見については前

垣委員を中心とする。

- ・執筆して頂いた先生の氏名を入れる。
- ・栄養や食事といった生活指導や育児相談、それぞれの時期に保護者や保健師から寄せられるよくある質問などについて、コラム形式で挿入する。こちらについては笠木委員を中心に作業を進める。
- ・問診項目については、平成26年4月から使用するためには印刷準備があることから、25年12月

中に概ね完成させたい。

- ・次年度の小委員会は第1回目を10月頃、2回目を12月頃に開催する。

4. その他

鳥根県においても全県的な乳幼児健康診査マニュアルを作成予定であり、その際の参考とするため、【概要版】を見せて欲しいと県を通じて連絡があり、了承することとした。

5. 作成スケジュール案

平成25年3月末	【概要版】の完成 小児科、産婦人科医療機関の医師へ印刷、配布。約半年間、実際の健診の場で活用して頂き、意見を伺う。
平成25年10月	第1回小委員会開催 現場での意見を踏まえ【概要版】の追加、修正。 マニュアル（本体）の作成。
平成25年12月	第2回小委員会開催 マニュアル（本体）健康診査票の問診項目の決定。
平成25年度中	乳幼児健康診査マニュアル（本体）の完成。